

世界の国からこんにちは 国際理解セミナー ベトナム



第7回目に当たる国際理解セミナーが駐日ベトナム社会主義共和国特命全権大使 ドアン・スアン・フン氏を迎えて3月5日（木）18時半から船橋フェイビル6階のきららホールに満員の参加者を集めて開催された。

大使の講演に先立って、二人の在日ベトナム人学生が日本語でショートスピーチを行ったが、日本の発展の早さ、日本人の優しさ、寛大さに感服しているとユーモアを交えて語った。続いてベトナムの民族楽器で一弦琴のような「タンバウ」の演奏があった。

大使は通訳を介してのベトナム語で話された。まずベトナムについて；天然資源が少なく、天災の多



い日本の戦後の経済発展は素晴らしく、尊敬し手本にしている。ベトナムもフランスや中国、アメリカなどとの戦いを経験しながら1980年ごろから現在の復興が始まり、その過程は日本と似ている。1日1ドルの生活だったこともあったが、1986年から2011年の25年間でGDPは20倍になった。貧困率は60%から現在は8%となった。月に1回程度帰国しているが、その度に自国の変化に驚いている。

次に日本との関係について；外交関係は1973年から続いているが、日本はベトナムへの最大の直接投資国であり、今後も良好な関係を期待していると熱く語られた。

広報委員 中川

多文化防災講座レポート

3月13日（金）に船橋市主催の多文化防災講座「地域で進む多文化共生と災害時に備え普段からできること」に参加した。講師は多文化共生リソースセンター東海代表理事の土井佳彦氏。船橋市から、危機管理課小林氏が「避難所について」、国際交流協会片桐氏が「災害時外国人支援グループ」について話された。受講者は浦安・市原・鎌ヶ谷などからも来ていた。

講義はワークショップ形式で、各テーマを話し合いながら行われた。最初のテーマが、6名の写真（孫正義・和田アキ子・ダルビッシュ・猫ひろし他）で「誰が外国人？」であった。正解は「国籍」で猫ひろし氏だけが外国人。こんなスタートだったので一気に活発な意見交換の場となった。あとは「避難所で、こんなときどうしますか？」という質問がなされ、どれも正解のない内容で、とっさの場合自分がどう判断するかがテーマ。例えば「家族に連絡したいので携帯を貸して!」、「いびきがうるさいので注意して!」など言われた時どうしますか?というような内容。

YES.NOの他に多様な判断理由の発言があり参考になった。

最後に「自分のことを心配してくれる人がいれば頑張れる」というコメントの紹介で講座は終了。

報道等によれば、昨今東海沖地震をはじめ、気候変動等で想定外の大規模災害の発生が懸念される状況とされるが、有事における市当局の防災方針に沿って、我々協会側としても備えを行う必要が有ると感じた。

総務委員会 日野 隆



新しい社会ニーズに向けて 文化交流委員会／国際理解セミナー委員会

国際交流活動への社会ニーズはだんだんと変化してきています。外国人が住みやすい社会の実現から、多文化共生社会の構築へと、より積極的目標の達成が求められるようになってきています。こうした目標に対応するには「この町の国際化の方向」の認識が共有され、私たちがもっと世界を知り「自分たちのアイデンティティに確信」を持つことが必要となるのではないのでしょうか。

私たちの協会は、ご承知の通り8つの委員会で活動を進めています。それぞれの活動では、こうした社会ニーズに向けて工夫を重ねています。今回は、文化交流委員会と国際理解セミナー委員会の各委員長にその活動と目的について聞きました。

国際理解セミナー委員会 今村委員長

国際理解セミナー委員会は、船橋市国際交流協会の25周年を機に、船橋市民に対して世界の国々についての理解をより深めてもらうために、各国大使館にお願いし、その国のいろいろなことを紹介してもらうイベントを平成24年よりスタートさせました。定期的、継続的にこの種の事業を行うのは、全国的にも極めて珍しいということで、外務省の後援をいただき、船橋市との共催で実施しています。今年3月の開催で7回目となりました。おかげさまで毎回会場が満員の盛況となっています。当委員会では、毎回、参加された方にアンケート調査を実施し、調査結果を企画に反映しています。

例えば、希望の多い国を次回以降の候補としたり、その国の在日学生の日語のスピーチや民族舞踊の紹介などの新たな企画をも加えてきました。

一方、改善しなければならない課題もまだまだあります。

当セミナーの聴講者の年齢層は、60歳以上の方が70%、10代、20代の方が数パーセント、そして外国人の聴講者はわずかとなっています。もっと若い人たちや外国の人たちにも各国大使館の話を直接聞いてもらいたいと願っています。

会員のご家族、市内の中高生、大学生、在日外国人の方々などへの呼びかけの方法、セミナーのPRの方法など、検討すべき課題が多々あります。

更に、当委員会活動に若い人たちや外国人の参加を増やすことも大きな課題です。会員の皆様のお知恵も拝借しながらこれらの課題に取り組んでいきます。

皆様には当委員会への参加、及びこれらの課題に対する貴重なご意見などのご協力をいただければ大変ありがたいです。宜しくお願いいたします。

これまでにセミナーを実施した国
インド、インドネシア、ブラジル、ミャンマー、
ベナン共和国、デンマーク、ベトナムの7カ国

右の写真は
平成26年 ベナン共和国ゾマホン全権大使によるセミナー

文化交流委員会 嘉規委員長

日本人の「常識」は必ずしも外国人の「常識」ではありません。日本人同士でも「常識」の違いから争いが起こることが多く見受けられます。生まれた国も言葉も文化も違う外国人にはまして理解し難いものです。文化交流委員会は船橋在住外国人と国際交流協会の協会員が文化交流を通して、お互いをよく知り、よく理解し合い、思いやりを持つことで船橋市が共に住みやすい町になることを目標にしています。委員は約35名でその中には国際経験が豊富な委員もあり、色々な角度から意見交換がなされ、豊富なアイデアで活動内容を考案し、活発に活動をしています。

今年度の活動の柱は3つです。①外国人と日本人が一緒になって楽しめるイベント ②日本人から外国人へ日本文化を紹介するイベント ③外国人から日本人へ外国文化を紹介するイベントを実施します。①はまず仲良くなること。②③はお互いの文化を知り合うことです。

具体的には、それぞれの柱に対応して次の様なイベントを企画中です。①5～6月頃にバス研修旅行 ②折り紙教室 ③フィリピン料理教室など。

今後も今まで以上に多くの在住外国人と日本人、そして若い世代が参加しやすいイベントを企画することで、幅広い世代が共に触れ合える機会が増えるようになれば良いと思います。「船橋に住んで良かった!」と言われるように活動を続けていきます。



留学生便り～イーストベイ校～

私が履修している授業は、教科書が指定されているほか、講師が身近な話や実際の事例を用いてくださるので、留学生でも十分に理解できる内容でした。ただクォーター制における授業内容の進行は速く感じられ、もう少しじっくり学習したいと思っています。ほかには、選択する授業にもよるのですが、一般的にこちらの大学は日本の大学と比べて課題や出席を重視し、テストの点数の比重は低いという印象です。

授業やその復習、課題などの勉強をしていないときは、基本的に日本人以外と一緒に過ごしています。東・東南アジア出身の学生とは英語のレベルが同程度なので、ほぼ不自由なく会話をする事ができますが、西・南アジア、また特に欧米出身の留学生と

の会話にはいまだに苦戦しています。彼ら彼女らの英語のスピードがいくぶん速いほか、日本人、アジア人として接点の少ない文化や歴史、社会システムに関する話が始まると一苦労です。ただ、そうした各国の習慣や教育システムといった日本で滅多に聞くことのできない話は興味深くて面白いです。各国の話を理解できた日、できなかった日、日本のことを満足に伝えられた日、そうでなかった日に一喜一憂しつつも、ほぼ毎日彼ら彼女らと晩ご飯を共にしながら語りあっています。食事時間に友人達とそれぞれの国のことについて聞き、話すことは、授業と同等、もしくはそれ以上に学ぶことが多いです。

2015年1月 上村飛翔

台湾料理講習会～肉まん作り～

2月9日（水）文化交流委員会主催で中央公民館実習室にて台湾料理講習会を実施。32名（内外国人11名、男性2名）の参加者があった。

講師は台湾出身、在日34年の宗さん。まずは生地作りから。生地の材料のこね方、2時間の発酵、具材の肉の味付けの仕方、野菜の切り方、混ぜ方、生地の皮に具材を包み込むまでを実演。



肉まん作り風景

参加者は6班に分かれ、生地を一枚ずつ丸く伸ばす人、肉に味付けする人、野菜を切る人に分かれて準備。その後全員で皮に具材を

包み込み、蒸し器へ。蒸し器をわかしている間、講師テーブルで全員分のコンスープ作り。卵を入れるタイミングを教わった後、各テーブルに戻り、肉まんを蒸し上げた。

具を包み込む作業では苦戦していたが、出来ばえはともかく、12分蒸して出来上がると「おいしそう!」、「早く食べたい!」の声も。コンスープと講師手作りのあんまんと共に美味しくいただいた。

男性2名の内一人は中華料理の現役コックさん、もう一人は料理教室に通う会員の方で、野菜の切り方やこね方も手際よく、力強い味方となった。実習中は終始にぎやかで、参加した中国、フィリピン、ミャンマーの人達との交流も楽しんだ。

広報委員 塚原

横須賀市避難訓練レポート

1月17日（土）18日（日）、横須賀市での「学校体育館で宿泊体験」に参加した。場所は、夏島小学校（京急本線追浜駅から徒歩5分）である。毎年、夏は船橋市、冬は横須賀市で行われる避難所宿泊体験は、今年は天候に恵まれ、また、災害ボランティアネットワークのボランティアの皆様の手際よい行事進行によって楽しく参加できた。

主な講座内容として

「夏島小学校における防災の取り組みについて」

横須賀市立夏島小学校校長 小川義和先生

この小学校は、海拔3.4メートル、高台まで500メートルという所にあり、避難に時間がかかるため保護者からの要望で避難階段を設置した。また、避難体制として学校運営、救護・衛生、避難所の三つに分け、避難所運営マニュアルを作成した。防災教育「お・か・し・も」（おさない・かけない・しゃべらない・もどらない）避難訓練を毎月行っているなどのお話をうかがった。毎年各小学校では、校長先生を中心に学校ごとの状況に合わせた災害への対応策がしっかり

取られている。子供たちの大切な命を守るためにやりすぎということはないと思う。

「震災時避難所での要援護者対応について」

横須賀市障害者施策検討連絡会 防災ワーキング 浅羽 昭子氏

身体的な障碍（視覚、聴覚など）で情報の受発信が容易ではないことがある。これは日本語が堪能でない外国人には、難しい日本語が理解しづらいのと同じである。また、精神的な障碍により、配給などの順番を待つことができない場合どのように対応するかなどは、文化や習慣の違いで並ぶことが日常に無いなど、日本人が当たり前と思っていることが外国人にとってはそうでない場合どのように伝え理解してもらうかなどの支援の仕方が、外国人サポーターの私たちにとっても、参考になる良いお話であった。また、参加者からの感想として、「こういった避難宿泊体験は大変良いと思う。もっと多くの人に体験してほしい」という意見があげられた。

災害時外国人サポーター 白川 恵

Did you hear?

知ってた?

Japanese and Korean girls are well-known for giving so much chocolate to so many men on St. Valentine's Day. In Japan, boys have to be careful if the chocolate gift means *Hommei*, serious and honest, or *Giri*, obligation or for business relationship. Recently, chocolate companies are doing even better in their Valentine business, and a lot of boys, as well as girls, are giving chocolate to friends, which is called *Tomochoco*, friendship chocolate. You don't have to be surprised or worried when you receive chocolate from whoever. However, note that some are crazily expensive, and some people work one whole day just to reshape and wrap a piece of chocolate.

バレンタインデーのチョコレートを、日本と韓国の女性は、ずいぶんたくさんの男性に配る。だから、日本でバレンタインチョコを受け取ったら、本命・真剣な真心・なのか、義理・義務的なお礼や仕事の付き合いのため・なのか、用心して見きわめるべきだ。このところ、チョコレート会社のバレンタイン商戦が進化して、女の子だけでなく男の子も、トモチョコと言って、友だちにチョコレートを贈るようになった。もはや、どれからチョコをもらっても、驚くことはないし、心配もいらない。ただし、なかにはメチャクチャ高いチョコもあるし、まる一日かけて溶かして形を変えたり包み直したりする人もいる。

「ようこそふなばし」の復刊について

休んでいました「ようこそふなばし」を2015年4月より再開します。

日本語版、英語版、中国語版の3種類を年4回発行します。皆さんは、国際交流協会のホームページ (<http://fira.jp>) から任意の言語の情報紙を無料でダウンロードして読むことができます。ダウンロードは4月中旬を予定しています。

当協会にあなたのe-mailアドレスを登録いただきますと、発行の度に、発行の情報を連絡します。e-mailアドレスだけの登録です。

登録は、次のアドレスに空メールを送って下さい。返信メールが届いたら登録完了です。

返信メールに1週間ほどかかることがあります。登録は無料です。

メールアドレス: mail2@fira.jp

広報委員会ボランティア募集

国際交流協会・広報委員会ではボランティアを数名募集しています。

年3回の協会ニュースと年4回の「ようこそふなばし」の編集・発行が主要な活動になります。記事の企画、収集、編集、校正から発行まで一連の作業を行います。いろんな活動に参加して記事を書いていただくこともあります。

原則として、毎月第4水曜日にJR船橋駅近くのフェイスビル5階で定例委員会を開いています。見学参加も歓迎します。

関心のある方はぜひお問い合わせください。

問い合わせ先:

船橋市国際交流協会 (事務局) 船橋市役所国際交流室内
TEL:047-436-2083 FAX:047-436-2089

お知らせ

平成27年度総会を開催します

今年度の事業報告及び新年度の事業計画等を審議、決定するため下記のとおり総会を開催します。なお、総会に付議する議案は、後日会員の皆さんに送付いたします。

日時 平成27年5月14日(木) 午後2時30分から
会場 商工会議所6Fホール(船橋市本町1丁目10-10)
懇親会 総会終了後同所において懇親会を開催します。

平成27年度の会費納入のお願い

協会の会費は、年度会費です。毎年4月から翌年3月までの1年間の会費です。会費納入期限を平成27年4月25日とします。

同封の「払込取扱票」でお近くのゆうちょ銀行または千葉銀行へお振り込みください。

<年会費> 個人 一口 1,000円
法人・団体 一口 10,000円

※二口以上の場合はお手数ですが通信欄に口数記入のご協力をお願いします。

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号記号 00170-7-57755

加入者名 船橋市国際交流協会

千葉銀行船橋市役所出張所 口座番号 普通 3018415
口座名義人 船橋市国際交流協会 会長 田村 泰一

あとがき

息子の小学校で、10歳まで無事育ったことに感謝して歩みを振り返る、「1/2成人式」なるものが行われた。子どもたちの個性あふれる発表に笑いあり涙あり。どの子も家族だけではなく、友だちや先生、関わる多くの人々に育ててもらっているし、つながっている。人が亡くなるということは、-1という単純な算数では表せない。その人を知る全ての人の心に、それぞれ大きな穴を開けるのだ。和歌山や川崎で小中学生を殺めた犯人は、そんなことを露ほども考えず犯行に及んだのだろう。自分自身にも同じようなつながりがあることも知らずに育ったのかもしれない。人はどこで曲がり間違えるのだろう。

(S.F)